



環境立国 Tokyo

家庭の生ごみを堆肥としてリサイクル。雨水はドラム缶や使わなくな

った風呂おけにためて利用。ピオトープやヒートアイランド防止の緑化

環境学習の「コンビニ」

策としてキウイ棚も併設…。

NPO（民間非営利団体）「足立グリーンプロジェクト」が、足立区六町の区画整理用地で運営する「エコ農園」のコンセプトは「見える、学べる、手が出せる」。環境学習の「コンビニ」として、小学校や他自治体の視察も多い。

2年前は雑草だらけだった土地がエコ農園に。生ごみの堆肥で育った小松菜や大根など、冬野菜の収穫を待つ

足立区六町

区画整理用地にエコ農園

平成十五年八月、発起人の平田裕之さん（三）が「実践を通じて環境問題に取り組みたい」と区に提案。年六十万円管理費を持つことを条件に、委託を受けた。住宅街の一角、不法投棄の絶えなかった約二千平方メートルの荒地を農園に再生した。

農園の担い手は登録制の「エコ・ボランティア」と呼ばれる地域住民。農業の素人も多い。

□コミで参加者は増え続け、十六人で始めた活動は現在百六十八人となった。収穫した作物は漬物にしたり、パーティーを開いて食べた。平田さんは「環境問題は一部の専門家のものではない。農園を通じて新たな地域社会のかかわりも生まれた」と話している。